

令和元年度 中小企業使えるBCP訓練モデル事業

訓練概要及び成果（3社）

I. 日本フネン株式会社

訓練	災害発生時における時系列に沿った場面シミュレーション訓練（3場面）
目的	①本社および各工場の現場管理職が行うべき対応を疑似体験する。 ②発災時、何を行う必要があるか、そのためにどのような準備が必要かについて気付き、今後の検討材料にする。

1. 訓練シミュレーションの実施

（1）場面1：安否確認（発災後2時間後）

提供された情報に基づき、各事業所内の安否情報を取りまとめ、負傷者・不明者に係る対応の指示を行い、災害対策本部に安否結果を報告する。

（2）場面2：被害状況確認（発災後3時間後）

随時提供される被害情報に基づき、各事業所内の被害状況を取りまとめ、応急対応が必要なものへの対応の指示を行い、災害対策本部に被害状況を報告する。

（3）場面3：当日の最終指示（発災後6時間後）

これまでの情報及び従業員や顧客からの様々な要望に対する各事業所内の従業員対応等、最終的な指示を行い、災害対策本部に報告する。

2. 情報共有

各グループが主に以下①②③の項目に関し、上記1～3の場面ごとに意見交換を行い必要事項の確認・共有を行うことで、参加者全員の対応力や判断力の向上に繋がった。

- ① 不明者や負傷者に係る対応・指示
- ② 応急対応に係る指示
- ③ 翌日以降の業務に係る指示

3. 振り返り

振り返りシート記入の上で、各場面における行動を迅速に行うために、以下の「具体的事項」に関し、

- ・事前に決めておくべき基準やルールなどはないか。
 - ・事前に準備しておくものや備品などはないか。
- 等、今後の検討事項などの意見交換を行った。

【具体的事項】

- (1) 社内行方不明者に対して捜索の指示を出せたか？
- (2) 負傷者に対する応急処置の担当者は、具体的に何をするか、どんなことに注意すればいいか等理解できているか？
- (3) 二次災害防止の観点から、放置できない被害状況に対して、周辺地域情報を勘案した上で、何らかの意思決定を行ったか？
- (4) 帰宅希望社員に対する指示はどのようにするのか？

4. 訓練での気づきや成果（日本フネン株式会社様記入）

- ・ 発災→避難→点呼は決まっているが、その後の行動内容と判断の基準が決まっていない（捜索、建物立入、帰宅等）→改善
- ・ 上記判断をする上での手順と判断材料が明確になっていない→改善
- ・ 建物立入チェックシートの作成（チェック項目や建物ごとの場所、安全装備や時間等の条件を書いたアクションカード形式のチェックシートを作成する）
- ・ 行動開始責任者を各工場で決定し、それまでの一般従業員に対する指示内容を明確にする。
- ・ 帰宅指示（手段や、道路状況、災害状況等の判断材料を明確にして、指示者と次の日の行動などその他の指示内容も明確にする）



II. 株式会社姫野組

訓練	道路啓開開始までのシミュレーション訓練（2場面）
目的	①災害発生時の道路啓開作業までの状況をシミュレーションすることにより、参加者の判断力・対応力の向上を図る。 ②現状BCPの実効性を検証し、課題を明確にして改善に繋げる。

1. 訓練シミュレーションの実施

(1) 場面1（発災1時間～2時間）

提供された情報に基づき、各グループで以下を検討する。

- ① この段階での道路啓開開始のための不足情報
- ② 不足情報の収集のための手段、方法及び事前準備
- ③ この状況下で道路啓開を担当する者の参集場所及び参集手段

(2) 場面2（発災後2時間～3時間）

提供された被害状況に基づき、各グループで以下を検討する。

- ① このような状況下で行うべき意思決定の内容及びその理由
- ② 意思決定に必要な事前準備事項

2. 情報共有

場面ごとに、各グループから「どのような検討を行ったか？」等の意見発表を行った。それらに基づき、各課題についての全体討議を実施することにより、参加者全員の対応力や判断力の向上に繋げた。

3. 振り返り

振り返りシートを記入の上で、それぞれの行動を迅速に行うために、以下の

「具体的事項」に関し、

- ・ 事前に決めておくべき基準やルールなどはないか？
 - ・ 事前準備しておくものや備品などはないか？
- 等、今後の検討事項などの意見交換を行った。

【具体的事項】

- (1) 不足している必要な情報
- (2) 道路啓開担当者の参集場所及び参集手段を理解したか？
- (3) 啓開作業の原則と例外措置の対応
- (4) 発災時の帰宅許可基準

4. 訓練での気づきや成果（株式会社姫野組様記入）

（1）不足している必要な情報

当社BCPで発災後すみやかに自動着手する計画となっている道路啓開を開始するにあたり必要となる情報が不足することが判明した。不足情報と対策は、以下の通り。

① 参集可能な社員の内、道路啓開に従事可能な者の特定

[対策]→安否確認システムの活用で、道路啓開の責任者が参集可能な社員の内、当該作業に従事可能な者を特定する。

② 参集できる人の免許・資格の情報

[対策]→BCPファイルの中の「全社員の資格一覧表」を再認識する。

③ 機材センター及び各現場作業所の機械の種類及び稼働情報

[対策]→防災センターで把握している情報を共有化する。

④ 発災時の具体的な道路情報

[対策]→・道路維持緊急出動班が把握し、国交省と共有する情報を災害対策本部とも共有する。
・道路啓開緊急出動班のLINEグループを作成し、情報共有する。
・徳島県や国交省が調査した道路情報の取得方法を確認する。

⑤ 協力会社の稼働できる人材・人数の情報

[対策]→協力会社の情報把握をする担当者の明確化により、安否確認システムにて必要な情報を把握する。また、LINEの活用を検討する。

（2）道路啓開担当者の参集場所、参集手段

道路啓開作業の参集拠点が石井作業所、代替拠点は防災センターであることを明確化する。参集手段は今後の課題。

（3）啓開作業の原則と例外措置の対応

道路啓開時の私有財産への対応で、対象物により道路啓開担当者の判断で処置可能なものと、道路管理者等の判断を仰ぐべきものを再確認する。

（4）発災時の帰宅許可基準

発災時の社員の帰宅許可には会社の責任が発生するため、自宅までの距離や、帰り道での津波の有無、災害の規模などを考慮し、基準を検討する。

今回の訓練を通して、情報を必要とする人が確実に情報にアクセスできる様、情報共有手段などの充実が必要であることが判明した。地域の復旧開始の前提となる緊急輸送路の道路啓開が極力スムーズに実施できる体制構築を目指し、今後も引き続き地域の建設会社としての使命感を持ち当社BCPの実効性を継続的に高めていく。



Ⅲ. 株式会社阿波酸素

訓練	大規模災害時の初動対応のイメージ訓練
目的	①大地震が発生した際、従業員としてやるべきことは何かを具体的にイメージすることにより、社員の災害に対する意識を高める。 ②初動対応に必要な行動内容とその実施事項、平常時から準備しておくべきものを理解する。 ③災害発生直後の行うべき行動内容についてイメージし、ワークシートに記入する。

1. 訓練シミュレーションの実施

(1) 災害発生時の初動対応について、各社員が考える対応行動とその順番をイメージした上で、ワークシートに記入する。その後、現状のBCP上で決められている対応と比較の上、BCPの改善点を発見する。

2. 情報共有

各社員それぞれに意見交換を行い、特に自分と異なる対応を行っていた場合、互いに質問・意見を出し合うことで、共通認識を深め、参加者全員の対応力や判断力の向上に繋がった。

3. 振り返り

振り返りシート記入の上で、災害時の初動対応として、それぞれの行動を迅速に行うために、

- ・ 事前に決めておくべき基準やルールなどはないか。
- ・ 事前に準備しておくものや備品などはないか。

等、今後の検討事項などの意見交換を行った。

特に現行BCPに不足している項目や具体性に欠ける表現などの問題点を抽出し、更なる改善に繋げることとした。最後に、訓練を通じた気づき等の話し合いを行った。

4. 訓練での気づきや成果（株式会社阿波酸素様記入）

- ・ BCP訓練にて各社員においての災害時の初動対応を再認識できた。
- ・ 弊社事業の特徴から発災時に誰が事務所にいるか、営業はどこにいるか把握が難しい。初動対応にて担当を決めることが逆に対応の遅れを招くことを社員から指摘された。そのため今後担当制を廃止し、講師から提案のあった某ホテルで活用されているシステム、カードを導入していくこととし、作業に取り掛かっている。
- ・ 弊社の特徴を理解し、BCPをよりシンプルなものに変更していくこととする。



地区別
災害発生時の速報 自社 被災状況(4時間以内)の速報

連絡日時 年 月 日 時

地区名

販売店氏名

販売店電話

自社の被災原因 地震 津波 台風 洪水 火災 暴風

被災無し 被災有り 有りの場合下記に記入してください

(人的被害) 無し 有り 有りの場合下記に記入してください

従業員 () 店の中 () 店外 () 帰宅中 () 帰宅後

家族 () 店の中 () 店外 () 帰宅中 () 帰宅後

(施設被害) 無し 有り 有りの場合下記に記入してください

事務所 無し 少被害発生可 被害発生不可 付) 被害発生可

店舗 無し 少被害発生可 被害発生不可 付) 被害発生可

設備 無し 少被害発生可 被害発生不可 付) 被害発生可

倉庫 無し 少被害発生可 被害発生不可 付) 被害発生可

自 宅 無し 少被害発生可 被害発生不可 付) 被害発生可

備 考

※各地区において報告を要すること。

令和元年度「中小企業使えるBCP訓練モデル事業」概要

【開催目的】

策定指導専門家が受講企業を訪問し、ヒアリング・打合せを行った上で、受講企業の要望に沿った訓練手法を選択し、現状BCPを踏まえた訓練シナリオに基づくオーダーメイド型のBCP訓練を実施する。集合研修型の訓練でないため、自社BCPの改善のみならず、社員の意識向上・行動能力の強化に直接繋げることを目的とする。

【受講対象】 徳島県企業BCP認定企業

【スケジュール：全3回】

策定指導専門家が3回企業訪問を行い、現状のBCPをヒアリングし、作成したシナリオに基づき、当該企業オリジナル訓練を実施する。

[1回目] 現状のBCPのヒアリング

[2回目] 1回目ヒアリングを基に講師が作成した訓練シナリオ・資料についての打合せ

[3回目] 受講企業オリジナル訓練の実施